

鹿児島県甑列島のテントウムシ科甲虫相*†

神 谷 寛 之

九州大学農学部昆虫学教室

On the Coccinellid-fauna of the Koshiki Islands,
off the western coast of S. Kyushu, Japan

By Hiroyuki Kamiya

1960年8月下旬、九州大学学術探検研究会 (SESKU) は鹿児島県甑列島の学術調査を行なった。そのうち昆虫相の調査を担当した森本 桂博士によつて採集された標本中にテントウムシ科甲虫 24 種 164 頭が含まれており、発表に価する分布上興味深いものもあるのでここに報告する。

甑列島は、九州西方に北東から南西へ約 37 km にわたつて連なる三つの主な島 (北より上甑島, 中甑島, 下甑島) からなり、九州本島からの最短距離はおよそ 20 km 余りで、行政区劃上、鹿児島県薩摩郡に属する。本報に用いられた標本は次の 2 点で採集されたものである。すなわち、

23~25. viii. 1960, 下甑島藺牟田 (鹿島村に属し, 下甑島北端に近い) (Imuta, Shimo-koshiki-jima).

27~29. viii. 1960, 下甑島手打 (下甑村に属し, 下甑島南端に近い) (Teuchi, Shimo-koshiki-jima).

本列島は地理的位置からみても、対馬暖流に接し、暖地性の動物相を呈することが当然想像されるが、テントウムシ科に関しても、その傾向が強く認められる。ここでは採集された種の範囲で、各種の分布記録とその分布に関する若干の知見を記述して、同列島動物相の一端の資料を供したいと思う。

報告にあたり、所蔵標本の発表を許された九大学術探検研究会委員会 (委員長安松京三教授) の御好意に深謝の意を表し、又、日頃御指導賜わる九大農学部安松京三先生、平嶋義宏先生並びに採集にあつて特に留意された農林省林業試験場森本 桂博士 (当時九大大学院在学中) にお礼申し上げる。

1. *Henosepilachna sparsa* (Herbst, 1786) ニジュウヤホシテントウ

3 exs., 24 [I]; 2 exs., 27 [T]; 3 exs., 28 [T]. ([I] は藺牟田, [T] は手打の産地その前の 24, 27 等は採集日を示す。以下同様)。

* Contribution Ser. 2, No. 119, Entomological Laboratory, Kyushu University, Fukuoka.

† 九州大学学術探検研究会業績, No. 3.

分布：日本(関東以西), 北支那からインド, 琉球, 台湾, オーストラリア, ニューギニア, サモア群島, フィジー群島等に広く分布.

2. *Amida tricolor* (Harold, 1873) アミダテントウ

1 ex., 24 [I]; 2 exs., 28 [T].

分布：日本 (本州中部以南, 四国, 九州).

台湾には別亜種を産し, 九州は南端まで発見されているが, 南西諸島からは未記録である.

3. *Clitostethus nagasakiensis* H. Kamiya, 1961

2 exs., 29 [T] ミカン樹上.

既知産地は長崎市, 香川県象頭山のみである.

4. *Stethorus japonicus* H. Kamiya, 1959 キアシクロヒメテントウ

4 exs., 24 [I].

分布：日本全土.

5. *Scymnus (Nephus) patagiatus*

Lewis, 1896 セスジヒメテントウ

ウ

2 exs., 24 [I]; 2 exs., 28 [T].

分布：日本 (本州, 四国, 九州), 琉球 (奄美群島, 沖縄, 西表島), 台湾.

6. *Scymnus (Scymnus) hareja*

Weise, 1879 ハレヤヒメテントウ

1 ex., 29 [T] ミカン樹上.

分布：日本 (北海道, 本州, 四国, 九州, 屋久島).

7. *Scymnus (Scymnus) marinus*

H. Kamiya, 1961

2♂♂, 2♀♀, 25 [I] ハマボウフウにつくアブラムシを捕食.

本種は福岡県玄海灘上の沖ノ島産の1♀によつて記載されたもので, 模式標本と比べてやや大形で体長 2.2~2.3 mm., 体巾 1.5~1.6 mm. (模式標本では体長 1.7 mm., 体巾 1.2 mm.). また, いずれも, 背面赤紋はよりやや小さく, 頭部, 腹面の色彩もより濃い, 其の他の構造においてはほとんど一

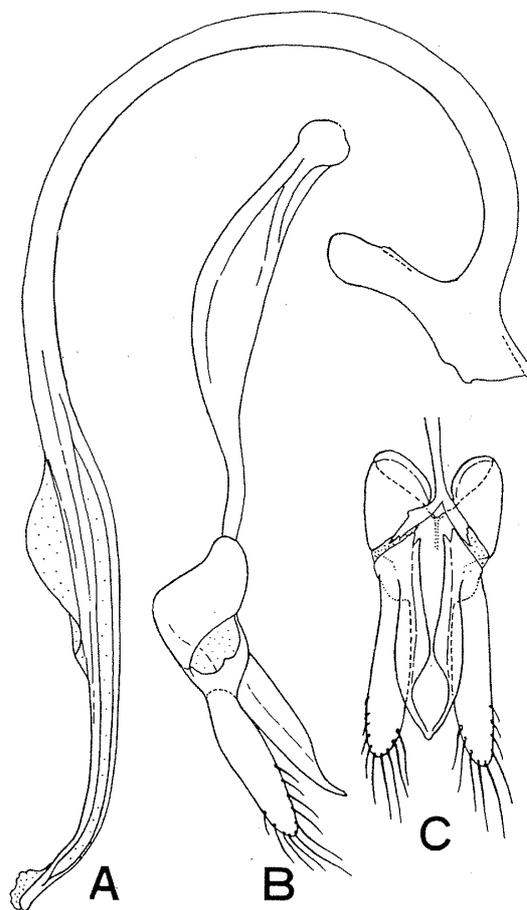


Fig. 1. Male genitalia of *Scymnus (Scymnus) marinus* H. Kamiya.

A: siphon, lateral aspect, B: tegmen, lateral aspect, C: tegmen except median strut, ventral aspect.

致し、同一種とみて差支えないと思う。原記載は♀のみでなされたため、分類学上重要な特徴である♂交尾器の構造をここに図示記載する (Fig. 1).

Sipho は中庸に細く基部半分は半円形を呈し、先端から1/3の所に膜状突起を有し、先端は外側に曲る。Tegmen は中庸に太く、median piece of tegmen は腹面から見た場合、先端の突出した舟形を呈し、lateral lobe は median piece よりわずかに長い。Median strut of tegmen は非常に頑強で、且強く曲る。これらの交尾器の構造は *Sc. (Sc.) nigrosuturalis* H. Kamiya, 1961 (琉球産) の交尾器と極めて似ており、ほとんど区別がつかない程である。両者は色彩が全く異なるがトカラ群島から記載された *Sc. (Sc.) miyamotoi* Nakane et Araki, 1959 の色彩はその中間段階の様相を示している、3種が互いに近縁の種であることを示唆する。しかし、3種は前胸腹板、腹部腹板第1節の構造などにより明らかに区別され得る。

本種が、福岡県沖ノ島と甌島の島嶼にだけ発見されることが偶然でなければ、分布上大変興味深い、微小種であるため、調査不充分という可能性が強い。

8. *Scymnus (Pullus) fuscatus* Boheman, 1858 カバイロヒメテントウ

1 ex., 24 [I]; 1 ex., 25 [I]; 1 ex., 28 [T].

分布：日本 (本州, 四国, 九州), 琉球 (奄美群島, 沖縄, 石垣島), 台湾, 支那, フィリピン, スマトラ, ビルマ, セイロン, インド.

9. *Scymnus (Pullus) hoffmanni* Weise, 1879 クロヘリヒメテントウ

5 exs., 24 [I].

分布：日本 (本州, 四国, 九州), 琉球 (奄美大島), 朝鮮, 支那.

10. *Scymnus (Pullus) kaguyahime* H. Kamiya, 1961

1 ex., 24 [I].

分布：日本 (九州).

11. *Scymnus (Pullus) contemptus* (Weise, 1923)

1 ex., 28 [T].

分布：日本 (本州, 四国, 九州), 琉球 (沖縄, 奄美大島), 台湾.

本種の酷似種, *rectus*, *dorcatomoides* は九州本島においては普通であるが、甌島からの材料中には全く見られなかつた。

12. *Scymnus (Pullus) hilaris* Motschulsky, 1856 コクロヒメテントウ

71 exs., 24 [I]; 10 exs., 25 [I]; 4 exs., 27 [T]; 6 exs., 28 [T]; 6 exs., 29 [T]

ミカン樹上.

分布：日本全土, 台湾, セイロン, ビルマ, インド.

13. *Scymnus (Pullus) kawamurai* (Ohta, 1929) カワムラヒメテントウ

1 ex., 25 [I]; 7 exs., 24 [I].

分布：日本全土.

14. *Cryptogonus orbiculus* (Gyllenhal, 1808) フタモンテントウ

6 exs., 24 [I]; 13 exs., 28 [T]; 5 exs., 29 [T] ミカン樹上.

分布：日本 (本州, 四国, 九州, 屋久島), 琉球 (トカラ群島, 奄美群島, 沖縄, 西表島), 台湾, 中国, インド其の他に広く分布.

15. **Hyperaspis japonica** (Crotch, 1874) フタホシテントウ
1 ex., 28 [T]; 4 exs., 29 [T]. ミカン樹上.
分布：日本（北海道，本州，四国，九州），シベリア.
16. **Serangium japonicum** Chapin, 1940 クロツヤチビテントウ
1 ex., 29 [T] ミカン樹上.
分布：日本（本州，四国，九州）.
17. **Telsimia nigra** (Weise, 1879) クロテントウ
3 exs., 29 [T] ミカン樹上.
分布：日本（本州，四国，九州），琉球（トカラ群島）.
18. **Chilocorus kuwanae** Silvestri, 1909 ヒメアカホシテントウ
1 ex., 29 [T] ミカン樹上.
分布：日本全土，樺太，支那.
19. **Lemnia biplagiata** (Swartz, 1808) オオフタホシテントウ
1 ex., 24 (I).
分布：琉球，台湾，支那からインド，ジャワに至つて広く分布するが，九州本島からは佐多岬に多産するのみで，九州本島（属島を含む）の他地方，屋久島，種子島からも発見されない。分布の北限を示すものとして甚だ興味深い。
20. **Verania discolor** (Fabricius, 1798) チャイロテントウ
1 ex., 24 (I).
分布：日本（九州佐多岬，屋久島），琉球，台湾，支那からインド，セイロン，スダ列島等に広く分布。
屋久島以南では極めて普通のものであるが，九州本島からは佐多岬で一度記録されたのみで（江崎他，1953），其の後多くの採集者が調査するにもかかわらず採集されていないので，偶産的なものか，極めて稀なものであろう。
21. **Harmonia axyridis** (Pallas, 1773) ナミテントウ
1 ex., 23 [I].
分布：日本全土，琉球，台湾，支那，シベリア，満洲.
22. **Harmonia octomaculata** (Fabricius, 1781) ヤホシテントウ
1 ex., 23 [I]; 3 exs., 28 [T].
分布：日本（屋久島），琉球（トカラ群島，奄美大島，西表島），台湾，支那，フィリピン，ジャワ，インド，オーストラリア。
屋久島以南では前種と平行して出現し，更に南まで分布するが，九州本島からは全く発見されず，甌島から採集された点は興味深い。なお，対馬に産することを確認しているが，これについては稿を改めて報告したい。
23. **Propylaea japonica** (Thunberg, 1781) ヒメカメノコテントウ
1 ex., 23 [I].
分布：日本全土，琉球，台湾，支那，シベリア.
24. **Anisocalvia duodecimmaculata yuasai** Nakane, 1954 クロジュウニホシテントウ
1 ex., 28 [T].
分布：日本（本州，四国，九州）.

以上のように、わずか24種の中に、九州本島に全く見られないもの2種、佐多岬（九州南端）が既知北限であつたもの2種を含むのみでなく、残りの種も調査不充分的微小種を除けば、台湾、琉球からの共通種が多い。これは北海道から九州まで分布する種が少なくないにもかかわらず、そのような種が甌島にはわずかしか採集されていない点と比較して興味深い事実と思われる。

なお、本報に用いられた SESKU 所蔵の標本のすべては九大農学部昆虫学教室に保管されている。

Summary

In August, 1960, the Scientific Expedition Society of Kyushu University (SESKU) carried out the scientific survey to the Koshiki Islands, off the western coast of South Kyushu. In this paper, the author records 24 species of the family Coccinellidae from the islands based on the materials collected by the survey. Two of them, *Harmonia octomaculata* (Fabricius) and *Scymnus (Scymnus) marinus* H. Kamiya have not been recorded from the mainland of Kyushu and two others, *Lemnia biplagiata* (Swartz) and *Verania discolor* (Fabricius), represent the northernmost record of the distribution of the species.

The structure of male genitalia (Fig. 1) of *Scymnus (Scymnus) marinus* H. Kamiya, 1961, which was described from a unique female specimen, is described as follows: Siphon moderately slender, basal half of siphon rounded, semicircular; a membranous extension being at the apical third of siphon; apex of siphon curved to outwards. Siphonal capsule with a rather long inner process and a short outer process. Tegmen moderately stout; the shape of median piece of tegmen boat-like with a pointed apex in ventral aspect; lateral lobes of tegmen slightly longer than the median piece. Median strut of tegmen very stout and strongly arched. As this structure of genitalia is so closely allied to that of *Sc. (Sc.) nigrosuturalis* from the Loochoos, it is very difficult to distinguish the two species only by that structure.

オオコシアカハバチの食草

中 村 慎 吾

オオコシアカハバチ (*Siobla ferox* Smith) は日本各地に普通に産するハバチでその幼虫の垂背の上に大きなとげを持つた特徴のある種類である。

私は広島県比婆郡高野町で1961年9月28日、野生のヤマノイモ (*Sioscorea japonica* Thunb.) の葉を食べているのを観察した。その幼虫を採集して帰り、栽培種のナガイモ (*Dioscorea batatas* Decne.) の葉を与えて飼育したところ、この葉も好んで食べた。

これらの植物はこのハバチの今まで知られていない食草と思われるので記録しておく。